

第 13 回盛岡地区かわまちづくり懇談会

【資料 1】

事業報告資料

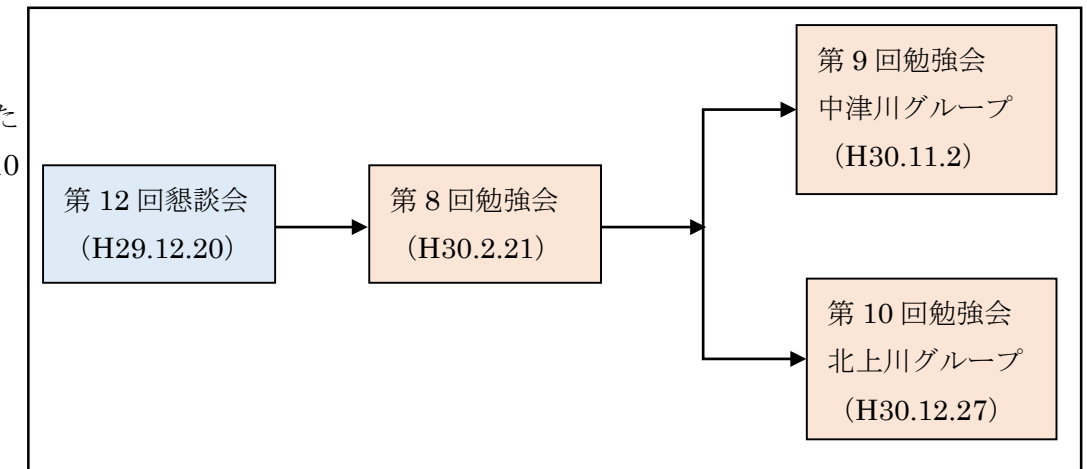
(資料 1-1～資料 1-4)

1. 前回懇談会等の意見とその後の対応

第 12 回盛岡地区かわまちづくり懇談会（H29.12.20 開催）での主な意見とその後の対応等

第 12 回懇談会後、同年度内に第 8 回かわまち勉強会を開催した。このとき、意見交換のテーマに中津川と北上川の両方があったことから、一定の時間内では十分な議論をすることが出来ない傾向があった。そのため、翌年度第 9 回は中津川関連テーマ、第 10 回は北上川関連テーマの勉強会として開催した。第 9 回、第 10 回ともコアメンバーは共通に参加したが、アドホックメンバーは、第 9 回は中津川関係者、第 10 回は北上川関係者とした。

（かわまち勉強会の第 8 回～第 10 回の「主な意見」と、意見に対する「現状」は、資料 1-1 の 3 ページを参照）



主な意見	事務局からの回答（当日）	その後の対応等	備考
①平成 29 年度の事業報告について			
○「もりおか中津川サケ物語」の作成について			
1. 冊子は、子ども達の学習に活用してもらう為、詳細な中身である。観光客向けには、もっと簡単な内容がよいのではないかと。 2. 観光客が冊子を見た時に、新潟県村上市のようにサケを食べられると思ってしまう。盛岡での「サケ」は、食べることではないとわかるようにした方がよい。観光客向けにパンフレットを作る場合は、考慮してほしい。	いただいた意見を勉強会等で議論する。	【第 9 回勉強会】 ・観光客向けリーフレットを作成するか、意見交換した結果、民間主体のグループでの編集印刷を促すこととしたい。	
3. 冊子は中津川沿いの色々な観光地、観光施設、お店などにも置ければよい。	—	【国】 ・多くの施設に置くことを前提に増刷に向けた検討をするが、ただちに不足が生じれば、当面は岩手河川国道事務所のホームページから「もりおか中津川サケ物語」を印刷して冊子を作ることが可能である。	
4. サケ遡上の時期には、サケマークの最中やそばを提供するなどまち全体で盛り上がるとよい。冊子だけで納まらず、プラスアルファで展開できるとよい。盛岡のまちと川とのつながりに特化して、PR していけるとよい。	いただいた意見を勉強会等で議論する。	【第 8・9 回勉強会】 ・「サケを資源としたまちおこし」の具体的な方策について議論を行い、まずはサケのぼりを設置し、そのことがマスコミなどに報道された。さらに、今後は盛岡市商工連合会（市商連）などにも打診していく予定。	
5. 冊子の編集委員会の連絡先が分からない。気付いたことをどこへ連絡すればよいのか。市民が参加できる窓口として、「もりおか中津川サケ物語編集委員会」の連絡先を書いておくとよい。	いただいた意見を勉強会等で議論する。	【第 9 回勉強会】 ・編集委員会の連絡先の記載について検討し、次回増刷・編集する際には、問い合わせ先、作成時期、簡単な作成経緯などを記載することとした。	
②旭橋上流右岸階段整備について			
1. 高水敷の安全対策を視野に入れてほしい。	現状で河岸に植栽があり、川にすぐに近づけないような配慮をしている。	【国】 ・今後、河川敷利用者の増加が見込まれれば、利用者に対して、高水敷の安全対策を検討する。	
③サイン計画について			
1. 使っている人からの意見は大切なので、気付いた情報をもらえるように、サインに設置者の連絡先を記載する必要があるのではないかと。	—	【国、盛岡市】 ・新規に設置するものについては、設置者の連絡先（盛岡市、岩手河川国道事務所）を記載する。また、既に記載済みの中津川のサインには貼付けて対応したい。	資料 1-2 参照
2. 観光客やジョギングする人などの誘導を考えると、利用者が多いところなどポイントごとに全体の距離案内を載せたらどうか。	—	【国】 ・まずは北上川において、全体の距離とそこでの現在位置がわかるようにするなどして、利用者を考慮した更なる工夫に取り組んだ。今年度内に設置予定である。	資料 1-2 参照

主な意見	事務局からの回答（当日）	その後の対応等	備考
3.シンボルマークのスペースは足りないのではないか。その場所に全体像がわかる情報を入れたらどうか。	シンボルマークがない選択肢もある。必ずしもつけなくてはならないわけではない。	【国、盛岡市】 ・北上川ではシンボルマークは設定しない。 ・全体図を載せてどの位置に自分が居るのか分かりやすいようにした。	資料 1-2 参照
4.設置の主旨をしっかりとさせないといけない。散策者や観光客の目安としてのものなら、開運橋近くに全体像がわかる看板があった方がよい。	—	【第 10 回勉強会】 ・誘導サインは、散策者や観光客に加えて、出水時等の避難誘導等も兼ねた案内であるため、基本的には現在の記載内容を継続する。 ・誘導サインには、現在のサインに全体像がわかる内容を追記するほか、案内サインはポイントとなる箇所（開運橋周辺等）に全体像がわかるサインの設置について検討を進める。	資料 2-1 参照
④舟運による地域振興について			
1.盛岡はゴムボート川下りなどやってきていて、関心はすごく高いので、1つにまとまれば、力になると思う。少しずつ取り組んでいる人達も参加できるような仕組み、呼びかけ方法などを考える。実現可能な、多くの支持を得られるようにする必要がある。 2.カヌーはよくやっている。今使っている人の意見を聞いて船着き場の整備などを検討するとよい。舟運など大きいことは難しいので、今使っている人達が使いやすくするところから始めてはどうか。		【第 8・10 回勉強会】 ・舟運の実現に向け、まずは、現実的な内容について検討を進めている。ゴムボート川下り大会等の関係者、主な水面利用者などを交えて勉強会等で検討している。	
3.北上川舟運の歴史を意識したものであってほしい。新山舟橋はシンボルとなる。そこを意識した何かがあるとよい。		【盛岡市】 ・舟橋跡地には案内板が設置されており、また各種舟運の紹介資料の中においても舟橋についても触れられている。舟運が今後活発になれば、さらに PR をする。	
4.船着き場整備は、今後の舟運事業の為の投資であると思う。将来の為の投資であるなら、便益を考慮しなくてはならない。民間に委託するなら利益も絡んでくるので、慎重に検討してもらいたい。大雨による出水で水位が上がった時に船が停泊する安全な場所を確保しなくてはならない。 5.旭橋上流右岸の河川敷を舟運で使用する場合、舟運の運航の頻度と、船着き場を整備する費用対効果を示さなくてはならない。船を動かす主体が地元の方とするなら、情報をどうやって得るのか、そのあたりを具体的に慎重に示していただきたい。	課題もあるので、利用予定団体と話し始めており、これらをクリアしていかななくてはならないと考えている。	【第 8・10 回勉強会】 【北上川に舟っこを運航する盛岡の会】 ・出水時には舟を停泊させるのではなく事前に安全な場所（堤内地）へ移動してもらうこととしている。 ・北上川の水面利用等を考えている方に勉強会に参加いただき、どのような運航で計画しているのかを中心に意見を伺っている。	
6.個人的な意見だが、係留場所が必要となれば、合流点あたりであれば何とかできるのではないか。合流点まで下れるようになれば、合流点の上流側であれば、流れはきつくないと思う。		【第 8・10 回勉強会】 【北上川に舟っこを運航する盛岡の会】 ・乗降所や上下架箇所の整備にあたっては、舟っこの会に対して最適な大まかな箇所を示したところ。	
7.係留場所について、カヌーをする人とのすみ分けなどもある。		【国】 ・それぞれの水面利用形態から必ずしも係留場所が同一とはならない。ただ、施設の利用については利用する方々の意見を聞いていく必要がある。	
8.業など定住性を持った地域おこしとするなら、対象区間の範囲を広げることによって、色々できるのではないかな。		【国、盛岡市】 ・舟運の実現に向け、まずは、現実的な内容について検討を進めるが、従来より北上川で活動している団体にも勉強会に参加していただき意見を伺っている。	
9.かわまちづくりの主旨からすると、一般の方々が川に親しむというのが主旨だろうし、自由に船を浮かべてよいということを市民が知らないことが課題である。みんなが船を浮かべ出したら、それだけで船のまちになる。そっちから攻めるのもあるのではないかな。			

第8回・第9回・第10回盛岡地区かわまち勉強会での主な意見と現状

第8回盛岡地区かわまち勉強会 (H30.2.21開催)	
主な意見 (中津川関連)	
①サケを資源としたまちおこしについて	
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市に相談しているが、「さけのぼり」を作ったので、活用してほしい。宮古市から、つくりたいと言われている為、とられないように早めに検討して欲しい。また、飲食店用に箸置きとお通し用の皿も作っている。 昔は、岩手県にサケはもっといっぱいいた。今と昔でどのくらい数が変わっていて、原因は何なのかを調べ、対策を考えていく必要がある。 プラザおでっの1階のスペースを、かわまちの拠点となるような施設にしたらどうか。北上川、中津川の情報が手に入り、水槽もあり、中津川でとれた魚、カジカ、ドジョウなどがある。拠点が1箇所できれば、色んな展開ができてくると思う。(資料1-4) 	
②河川を基軸とした生態系ネットワークについて	
<ul style="list-style-type: none"> 昔は、中津川では80種類くらいの魚がいた。魚の数について、以前のデータがあれば、昔と今で比較する。それがわかれば、生物の多様性という意味で、かつてのような数を残せるかわからないが、目安となるのではないか。 	



第9回かわまち勉強会【中津川G】 (H30.11.2開催) 主な意見と現状		
主な意見		現状
①サケを資源としたまちおこしについて		
<ul style="list-style-type: none"> (発信 (PR) 内容と発信主体) サケが遡上するまちであることをPRする方策は、「遡上するサケを見る」だけでなく、「サケを食べる」という面もあるのではない。 	<ul style="list-style-type: none"> PRする主体は誰が担うのかを勉強会で検討する必要があるが、次回は県漁連や地元商店街(アドホックメンバー)もメンバーに加えることも考えられる。 	
<ul style="list-style-type: none"> (サケのぼり等の制作主体) サケのぼり等の制作主体候補として、「盛岡市商店街連合会」(市商連)があるのではない。 サケのぼり等への寄付を募り、出資者の氏名を掲載する方法も有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、盛岡市商工連合会(市商連)などに打診する。 	
<ul style="list-style-type: none"> (サケのぼり等の保管) サケのぼり等を回収・保管する主体は、今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 同上 	
<ul style="list-style-type: none"> (サケ冊子) これまでに配布した小学校に対して、サケ物語冊子の活用状況を問うアンケート調査をし、増刷したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当小学校にアンケートを実施しているところで、増刷方法を検討する。 	
<ul style="list-style-type: none"> (観光客用リーフレット) 観光客向けには、簡易なものを冊子とは別につくったらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国交省では観光客向けリーフレット作成が出来ないため、民間主体のグループでの編集・印刷を促す。 	
<ul style="list-style-type: none"> (おでっの水槽) おでっ2階には、2月~3月にサケ水槽が設置される予定である。水槽設置時期に産卵場所ポスターを併設したり、水槽設置の広報が出来るとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> おでっに水槽を設置している期間、産卵場所ポスターや設置を広報する簡単なポスターなどを、市役所や歴史文化館などの屋内に掲示したい。 	
<ul style="list-style-type: none"> (絵地図) 絵地図を復刻する可能性のある、地元の出版社が、候補として挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 出版社等に確認していく。 	
②中津川における水辺の賑わい創出 (ミズベリング)		
<ul style="list-style-type: none"> かわまち勉強会メンバーのなかでミズベリングに関心がある方の呼びかけ、他のミズベリング事例などを学びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ミズベリングの意見交換会などがあれば、開催支援をする。 	
<ul style="list-style-type: none"> BBQは人気もあるので、近く公園と河川敷が一体となって利用できるとよい。利用者にとっては、河川敷の草刈と利用可能なトイレが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用実態に即した河川敷の草刈方法、利用可能な近隣のトイレ整備は今後の課題である。 	
<ul style="list-style-type: none"> イベントで参加者を集めるよりも、普段からBBQを目的に河川敷に来ている利用者を対象に、何か商売をするほうがやりやすいかもしれない。 	—	
<ul style="list-style-type: none"> 中津川は増水で河川敷が水没することもあるため、河川敷に持ち運び可能な機材が開発されるとよい。 	—	
<ul style="list-style-type: none"> ユニークベニューの一環として、河川敷を使って会議や懇親会などを実施することが考えられる。イベントの収益を河川敷の維持費にあてることも可能だと思ふ。 	—	

第8回盛岡地区かわまち勉強会 (H30.2.21開催)	
主な意見 (北上川関連)	
③舟運による地域振興について	
<ul style="list-style-type: none"> ゴムボートと、木造船は、別でそれぞれ検討した方がよい。 船外機は考えずに、まず流すところから考えたらいいのではない。 	
④北上川へのサイン設置	
<ul style="list-style-type: none"> サイン設置の対象が観光客であれば、中津川のように階段、坂路の中間あたりに、何m行けば、スロープや階段があるかを案内した方がよい。修学旅行生がいっぱい来ているので、川を使った近道や、自分はどこを歩けばよいかわかるとうい。(資料1-2) 全体像の中で、この時点がどこかわからない。自分がどこにいるか、わかるとよい。(資料1-2) 初めての人わかるように、起点をつくって、どのくらい歩いてきたかわかればよい。(資料1-2) スマホでQRコードを読み取り、現在地を確認できるようにしたらよいのではない。(資料1-2、資料2-1) 橋に番号をつけて、かわまちマップをつくとよい。散策路を歩けば、車の危険もない。 遊歩道を延ばすということはないのか? 散策路の名前をつけてはどうか。 八重樫 光行先生が作った「中津川絵地図」が一番よい。鳥や花、歌碑の場所、歴史的なことなど全部載っている。値段は高いが、それをもう1回作って、観光客に渡せば一番よい。駅前部分の情報を足せばよい。 	



第10回かわまち勉強会【北上川G】 (H30.12.27開催) 主な意見と現状		
主な意見		現状
①案内サイン等の設置場所とデザイン案について		
<ul style="list-style-type: none"> 全体像がわかる看板は、開運橋たもとのみだが、他の箇所にも全体像がわかる看板があると良い。 地図は北が上側なので、考えて直してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは既設の改修から行うが、現在の設置位置以外に、市が既に設置している主要な案内サインの場所に「i」マークを入れていきたい。 方位の北を上としたマップとする。方位を変更することによって、マップは天地左右が逆になるため、「写真・文章」の配置は全体の配置バランスをみて検討する。 既存及び新規の掲載情報リストは、資源に精通した団体に精査を依頼していく。バリアフリートイレの位置は、公共施設と主要民間施設(川徳・ななつく)とする。 ベースのマップは、「駅からハイキング」の地図を参考に検討する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 地図内の情報はもう少し内容を詰めた方がよい。こうした資源に精通した団体があるので、協力してもらおうとよい。 「駅からハイキング」の地図の方がすっきりしていて良い。 	—	
②今後の木伏緑地を中心とした水辺活用に期待すること		
<ul style="list-style-type: none"> 北上川沿いの遊歩道でのサイクリング利用は、中津川の遊歩道との整合がとれるか。 観光客が来てもらうためにはバスの駐車場が必要。開運橋近くにバスを止めるところがない。 木伏緑地から、北上川や中津川へ誘導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷は散策だけで自転車の通行を想定しておらず、自転車は押して歩くことを徹底させるため、河川敷につながるスロープの出入り口に自転車通行に関する注意看板を掲示する方向とする。 現況の利用状況から整備が難しいため、既存の西口駐車場を利用してもらうこととしたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ロータリークラブの碑もあり、移設が必要な場合は早めに内容を公表してもらわないと、活動に影響が出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅からのアクセス誘導方策や利用促進PRを向上させていくために、運営を担当する民間事業者と協議していくことで対応する。 既存の歌碑・記念碑等の移設が必要な場合は、公園管理者と民間事業者で協議した後、設置者に事前連絡し、対応することとする。 	
③北上川の舟運 (設定テーマ: 舟運を地域活性化へどのように活かすか)		
<ul style="list-style-type: none"> 川の浅いところを削ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 水深が浅い箇所は掘削しても再度堆積してしまう可能性が高いこと、岩があつて掘削できない場合もある。調査する必要がある。 	
<ul style="list-style-type: none"> 何らかの対策により舟で明治橋の上流側まで行けるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 下流側船着場の設計位置は「明治橋上流側」で検討する。また、できるだけ明治橋に近い位置を対象としたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 中津川・北上川の合流点はスイセンの花がきれいに咲く場所もあり、見てもらいたい。 カヌー・ボートのイベントを実施するためには、河岸を削り緩やかな傾斜にすることで、使いやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務所側で出張所に確認した結果、特に管理者は無く、自生しているようである。 利用者と現地確認しながら進めたい。 	

2. 北上川誘導サイン整備

北上川誘導サインの設置場所とデザインについて

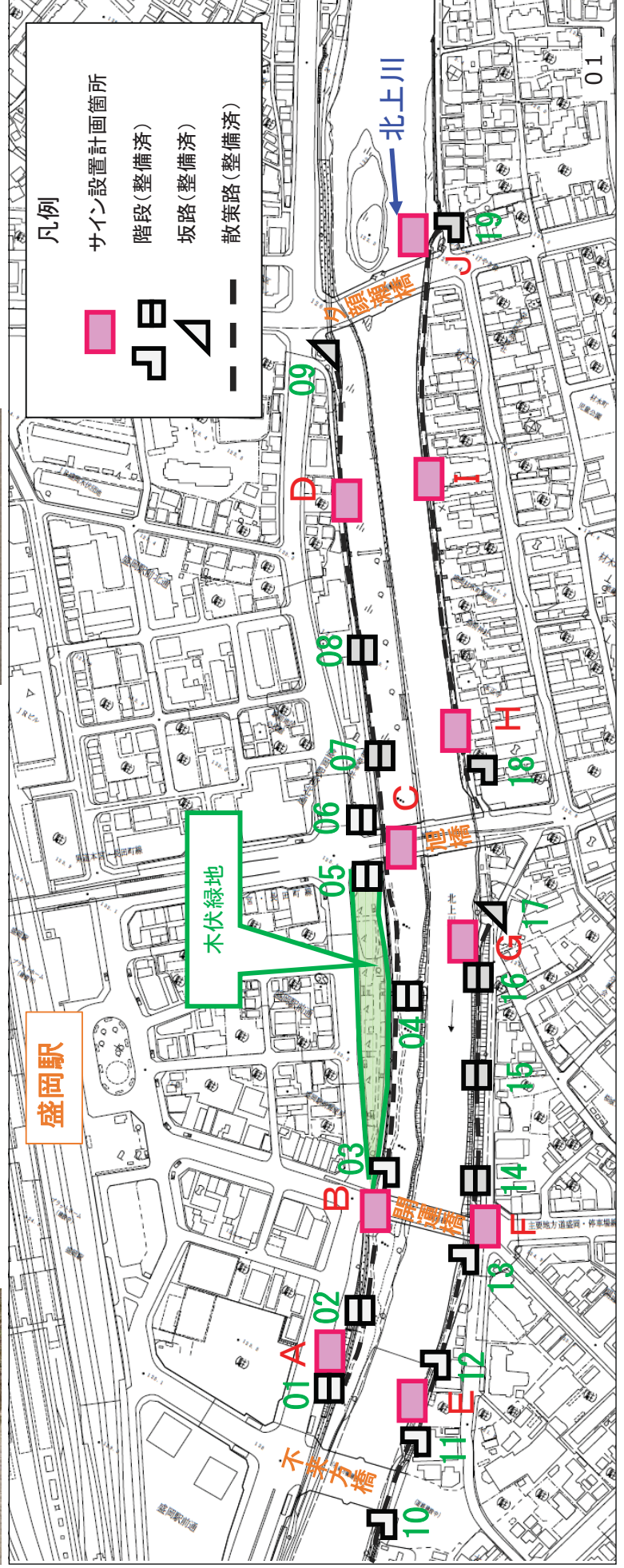
資料1-2

【北上川誘導サインの設置場所と既設階段・坂路位置図（右岸）】

設置場所：散策路が認識しやすい構造物（橋）付近及び階段間が長い区間は中間に配置する。

垂直方向設置高さ：地盤より135cm（※1）を目安とする。 ※1：立体視点と車いす視点の中間値。

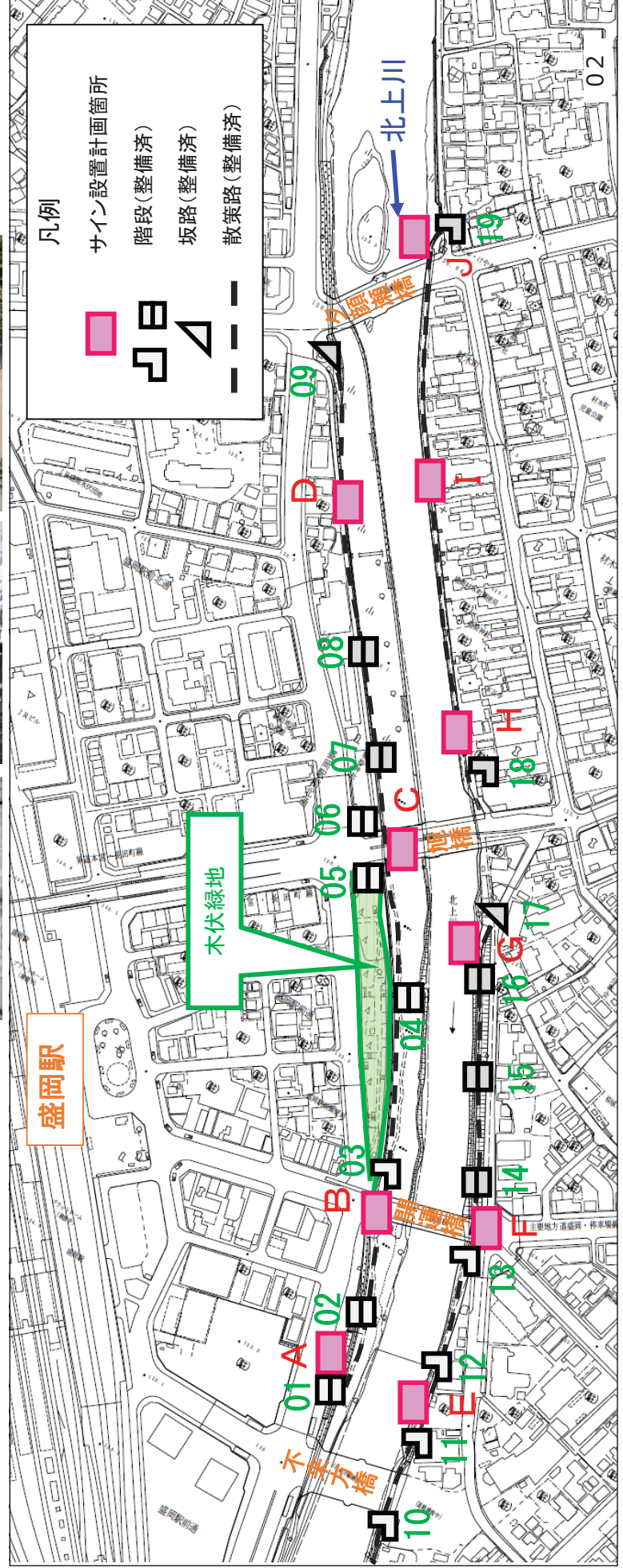
導線誘導：旭橋付近の左岸側は、散策路が一旦公道で途切れるため、上流・下流側双方方向において、誘導を促すサイン内容とする。



北上川誘導サインの設置場所とデザインについて

【北上川誘導サインの設置場所と既設階段・坂路位置図（左岸）】

設置場所：散策路が認識しやすい構造物（橋）付近及び階段間が長い区間は中間に配置する。
 垂直方向設置高さ：地盤より135cm（※1）を目安とする。 ※1：立体視点と車いす視点の中間値。
 導線誘導：旭橋付近の左岸側は、散策路が一旦公道で途切れるため、上流・下流側双方方向において、誘導を促すサイン内容とする。



A

ここは
不來方橋 上流
Kozukatabashi Bridge
付近です

北上川右岸
Kitakamigawa River right bank
散策路 下流端
Walking path downstream end

【コメント】
01階段直上流
に配置

現在地
You are here

不來方橋	Kozukatabashi Bridge	210m	4分
開運橋	Kaiunbashi Bridge	280m	5分
旭橋	Asahibashi Bridge	450m	7分
夕顔瀬橋	Yugaosebashi Bridge	450m	7分

盛岡市 岩手河川国道事務所
JR盛岡駅
QRコード

C

ここは
旭橋
Asahibashi Bridge
です

← 次の階段まで
Next steps →
130m 50m

【コメント】
旭橋脇に
配置

【コメント】
04階段まで
を示す

現在地
You are here

【コメント】
07階段まで
を示す

不來方橋	Kozukatabashi Bridge	210m	4分
開運橋	Kaiunbashi Bridge	210m	5分
旭橋	Asahibashi Bridge	210m	5分
夕顔瀬橋	Yugaosebashi Bridge	450m	7分

盛岡市 岩手河川国道事務所
JR盛岡駅
QRコード

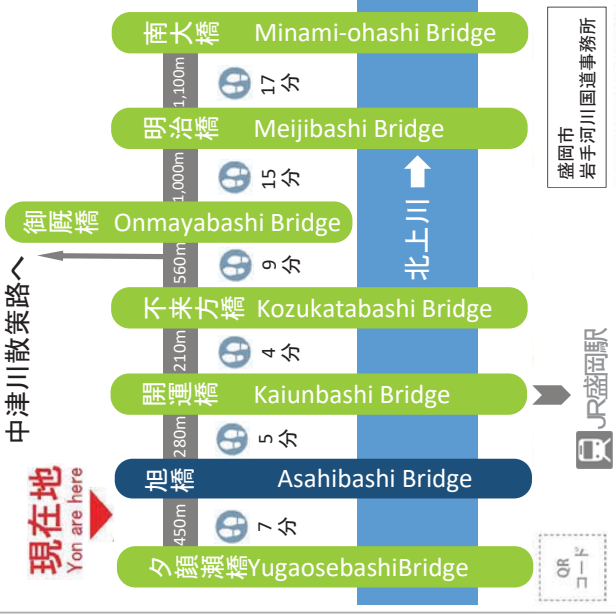
看板寸法: [縦]: 600mm、[横]: 300mm

H

【コメント】
18階段
脇に配置
(新規)

ここは、
旭橋上流
Asahibashi Bridge
付近です
中津川合流地点まで1,120m

下流側への散策路には、
階段を昇って、旭橋の下を
通ってください。
Please go straight on this road and
pass under the bridge to the walking path.

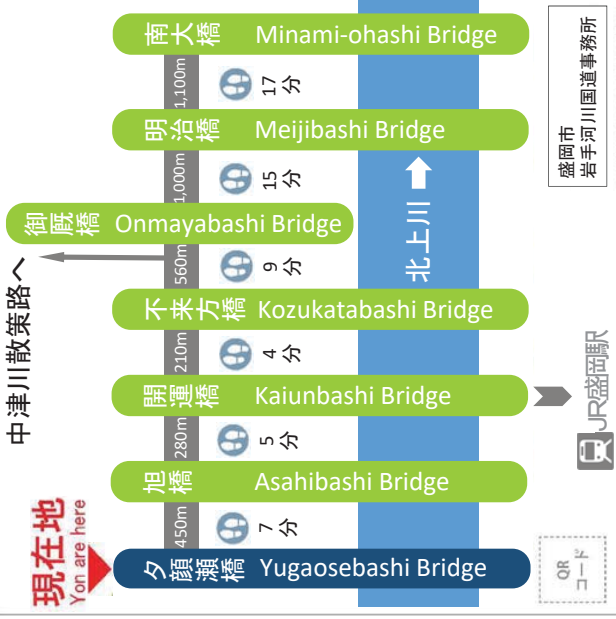


J

【コメント】
19階段脇
に配置
(新規)

ここは、
夕顔瀬橋
Yugaosebashi Bridge
付近です
中津川合流地点まで1,530m

北上川左岸
Kitakamigawa River left bank
散策路上流端
Walking path upstream end



3. 旭橋直上流右岸階段整備

(1) 経緯

1) 河川利用状況

- ・川守稲荷神社・荒神神社例大祭（平成 29 年 6 月 16・17 日、平成 30 年 6 月 15・16 日）
- ・第 1 回『北上川フェスタ』IN MORIOKA での乗船体験では、階段護岸を船の発着場所として利用している。

2) 整備検討の背景

- ・これまでの「例大祭」では主催者が仮設坂路を設営した。（写真 3-1 参照）
- ・地元では、堤防に設置しているゲートを広くして、広めの階段の設置を望んでいる。既設の木伏緑地階段が、希望されている形状である。（写真 3-2 参照）
- ・今後の舟運の取り組み実施に伴い、船の発着場所、船着場の利用が考えられる。



写真 3-1 例大祭時設置の仮設階段 (H30. 6)



写真 3-2 木伏緑地階段事例

3) 設置場所

- ・図 3-1 に示す赤の逆エル字マークの位置に階段整備をした。（図中の左上写真は、設置場所にあった既設階段）

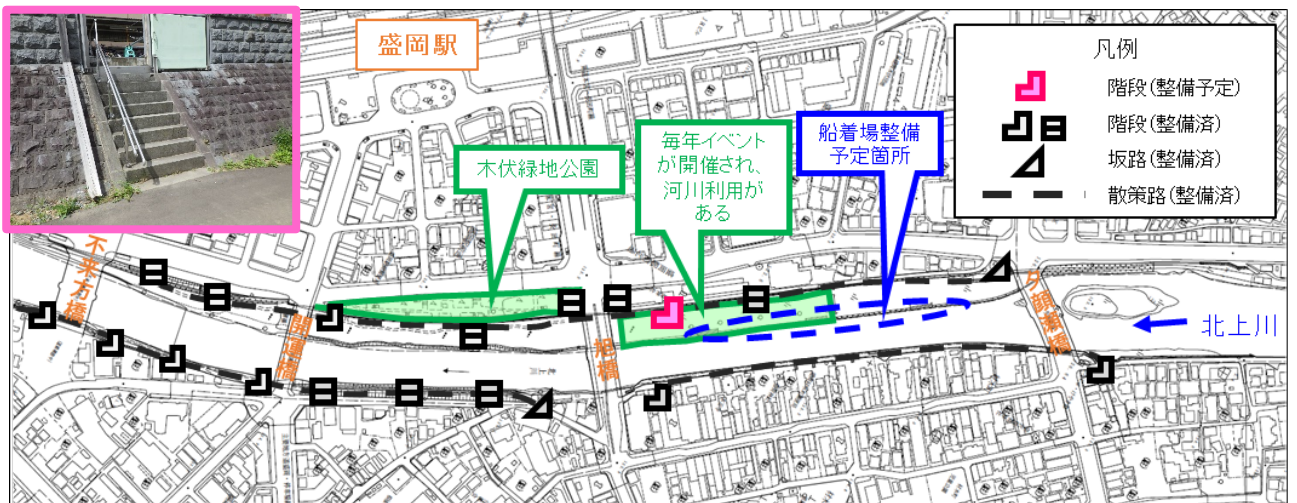


図 3-1 新規階段設置位置

4) 工事完成までの経緯

表 3-1 工事完成までの主な動き

年月日	名称	主な動き
H30.6.18	地元要望 回答	<ul style="list-style-type: none"> ・桜城地区まちづくり懇談会(盛岡駅前北通町内会) から盛岡市へ階段整備の要望あり。 ・近隣町内会、振興会から8名出席。 ・「今年度内に旭橋上流で階段整備を行いたい。」と回答。
H30.9.14	地区代表 者への工 事説明	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣町内会長ら3名出席。 ・地元要望会(H30.6.18)時で『天端入り口部は広いスペースを取って欲しい』の意見を反映させて設計。 ・「11月頃から工事に着手する。工事の際はチラシを作成するので町内会で周知していただきたい。」と説明。
H30.11.2	工事周知	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣町内会など町内会長他よりへ工事のお知らせチラシ235部配布。 <p>工事期間：平成30年11月中旬～平成31年2月下旬（予定） 工事箇所：盛岡市盛岡駅前北通1（橋市盛岡ビル裏）</p>
H30.11 中旬	工事着手	<ul style="list-style-type: none"> ・工事に着手。
H31.1.21	工事完成	<ul style="list-style-type: none"> ・工事が完成。

(2) 工事完成状況

- ・工事は平成31年1月21日に完成した。



写真 3-3 工事完成後 (H31. 1. 21 時点)

4. かわまちづくり関連情報発信

1) プラザおでって 2階における展示物設置

平成 31 年 1 月 20 日より、プラザおでって 2 階のエントランス部で、本町振興会によって水槽が設置され、サケの稚魚が展示されている。(写真 4-1 (1)) この水槽に併設してサケの産卵場所および産卵行動を示したポスター (A1 サイズ≒60 c m×84 c m) を掲示した。(写真 4-1 (2) および図 4-1) さらに、サケ水槽展示の広報ポスターを市庁舎内等の掲示板などに掲示予定である。(図 4-2)



写真 4-1 (1) サケの稚魚展示水槽
(おでって 2階エントランス)



写真 4-1 (2) サケの稚魚水槽横の説明ポスター
(おでって 2階エントランス)

2) プラザおでって 1階の展示スペースにおけるポスター掲示

展示スペースの利用条件：ポスター展示等

- ・国土交通省岩手河川国道事務所・盛岡市によって、盛岡地区かわまちづくりに関するポスター (5 枚) を掲示した (平成 30 年 10 月 18 日)。
- ・平成 31 年 1 月にはサケの稚魚展示に関するポスターの他、2 月には関連する講演会開催の案内など、今後も新たなトピックが有れば随時更新・追加する。



写真 4-2 (1) かわまちポスター掲示状況
(おでって 1階展示スペース)



写真 4-2 (2) かわまちポスター掲示状況
(おでって 1階展示スペース)

ボクのふるさと中津川

ボクは「中津川左門」といいます。
友達は「サモンくん」と呼びます。
みなさんもそう呼んでくださいね。



中津川では、毎年3月頃にはサケの子ども(稚魚)の放流会があります。稚魚は中津川から北上川を200km下り、北太平洋に出ておとな(成魚)になって再びこの中津川に帰ってきます。詳しくは、『もりおか中津川サケ物語』を見てね。(おでつての資料コーナーにあります)



ボクが生まれるまで(産卵)

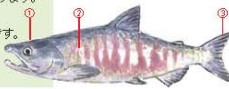
ボクはどんなふうにして生まれてきたんだろう?
お母さんとお父さんは
どんな姿だったんだろう?



オスとメスの区別

サケのオスとメスは、子ども(稚魚・若魚)の時も、大きくなった(未成魚)時もほとんど同じに見えます。ところが、川にもどるころになると変身(成魚)し、オスとメスの違いが、ハッキリしてきます。そのポイントを紹介します。

- オス**
- ① 頭は大きく、鼻先が長くたがって曲がります。(「南部鼻曲がり」とも言われています)
 - ② もようは、赤紫・黒の細かしまもようです。
 - ③ 尾びれの切れ込みは三角形です。
 - ④ 行動は、せわしく動き回っています。



- メス**
- ① 頭は丸く、鼻先は短いです。
 - ② もようは、1本の黒いしまもようです。
 - ③ 尾びれの切れ込みは丸いです。
 - ④ 行動は、川底を尾びれで掘り返し時々お縄が見えます。



産卵のドラマ

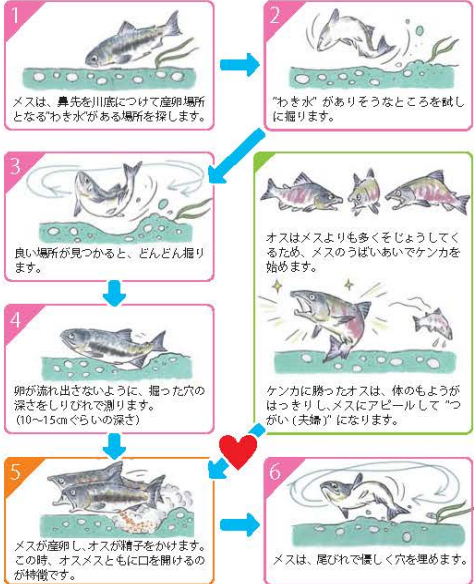
盛岡市内では、秋～冬になると海からサケがもどって来ます。川では、サケが大きな体を動かしているようすが観察できます。これは、中津川で産卵しようとする行動です。

毎年同じような場所で産卵していますので観察してみましょう。なお、橋から見る時は、通行する車に十分注意してください。



これが産卵場だ!
川底の石が白くなったところがあります。その場所が、サケが産卵場にしたところです。

サケの産卵行動

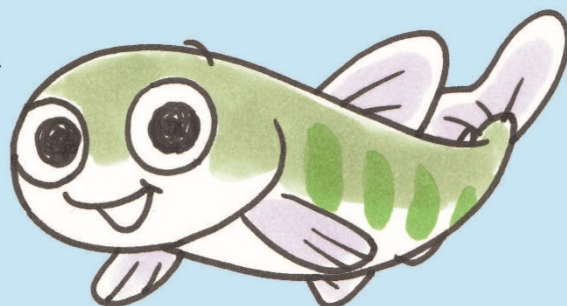


- このあとのメスとオスの行動は?
 - ・ メスは、産卵を数分おきに4~5回行います。オスは、また新たなメスを探しに行きます。
 - ・ 産卵行動を終えたサケたちは、やがて力つきて死んでしまいます。

図 4-1 サケの水槽横掲示ポスター (おでつて 2 階)

サケの赤ちゃんが
水槽で見られるよ

見に来てね！



サモンくん

場所：プラザおでって2階入口付近
期間：2019年3月8日まで

(水槽設置者：本町振興会)

図 4-2 サケの水槽設置広報ポスター（おでって1階など）



平成30年12月11日
水管理・国土保全局河川環境課

初の『かわまち大賞』に 2箇所を認定しました

～認定証は12月20日開催の授与式にて、石井大臣より授与されます～

今年度新たに、全国で進められている「かわまちづくり」の中から、他の模範となる先進的な取組を、国土交通大臣が認定する『かわまち大賞』を創設しました。

初の「かわまち大賞」は、全国から応募のあった16箇所の取組の中から、有識者よりなる審査委員会での審査を経て、このたび、2箇所の取組が認定されました。

12月20日に開催する認定証授与式では、石井国土交通大臣より受賞者に対し、認定証が授与されます。

1. 認定箇所

水系名	河川名	都道府県	かわまちづくり名称	取組内容	取組主体
最上川	最上川	山形県	長井地区かわまちづくり	長井フットパス ～かわからまちへ、 まちからかわへ～	長井市かわまちづくり 推進協議会
太田川	元安川 京橋川	広島県	天満川・旧太田川(本川)・ 元安川地区及び京橋川・猿 猴川地区かわまちづくり	水辺のオープンカフェ	「水の都ひろしま」 推進協議会

※各箇所の取組及び評価は、「別紙」をご覧ください。

2. 認定証授与式

- 1) 日時 平成30年12月20日(木)15時30分～16時頃
- 2) 場所 国土交通省 国土交通大臣室
(東京都千代田区霞ヶ関2-1-3 中央合同庁舎3号館)

3. 取材

- 授与式の取材(傍聴・撮影)は、会場の都合等により報道関係者に限らせていただきます。
- 取材を希望される報道関係者の方は、12月17日(月)17時までに、以下メールアドレスに、社名・役職・氏名・連絡先(電話&E-mail)を登録ください。
- 会場の関係上、事前の登録がない場合は、入場を制限させていただく場合がございますので、あらかじめご承知おきください。
- 集合時間及び場所は、事前登録の申込み受付完了後、メールにて、お知らせします。

【事前登録先】

E-mail : hgt-kawamachi@ml.mlit.go.jp

※メール送信後2日程度で着信確認のメールを送信しますが、連絡がない場合は、お手数ですが、以下の問い合わせ先まで連絡をお願いします。

添付資料 **別紙** 認定箇所の取組及び評価

参考① かわまち大賞の概要 **参考②** かわまちづくり支援制度の概要

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

企画専門官 榊井 正将(内線35-432)、係長 吉村 謙一(内線35-433)

【電話】 03-5253-8111(代表)、03-5253-8447(直通)

【FAX】 03-5253-1603

ながい
長井地区かわまちづくり

題名：長井フットパス

～かわからまちへ、まちからかわへ～

- 推進主体：長井市かわまちづくり推進協議会
- 構 成 員：長井市、長井商工会議所、長井市観光協会、地域団体、NPO 他
- 対象河川：最上川水系最上川(一級河川)

【かわまちづくりの概要】

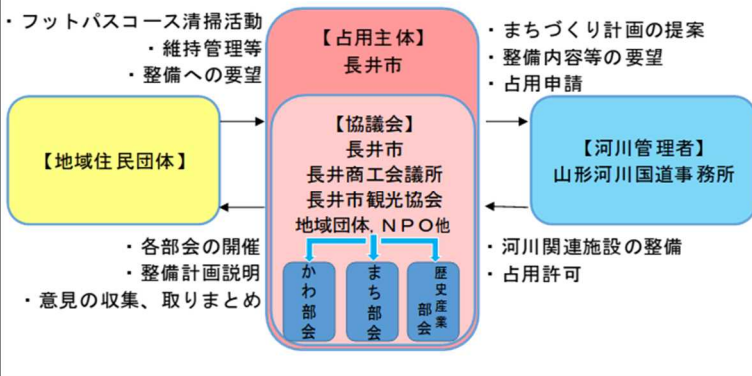
- ・ 長井市の特徴である「かわ」と「まち」を繋げ回遊性を高めるため、地域住民と連携を取りながら、全国の先駆けとなるフットパスを整備。
- ・ フットパスマップの作成など計画時から継続して地域が積極的に関わり、イベント開催やボランティアガイドの養成を進め、利用者数の増加、かわとまちの回遊性向上に寄与している。



【評価のポイント(審査委員コメントより)】

- ・ 舟運で栄えた長井市の特性を活かし、地元団体と民間事業者がうまく協力して事業を進めている。
- ・ フットパスにより「河川空間」と「まち空間」が連携し、さらにそれをつなげる役をボランティアガイドが担うことで、かわとまちの回遊性を向上させる取組が、際立って優れている。

管理運営体制図



図・写真：フットパスマップ(左下)とウォーキングイベントの様子(右上・中)。ボランティアガイドの様子(右下)。

問合せ先

長井市建設課

TEL:0238-87-0863

E-Mail:kensetsu@city.nagai.yamagata.jp

てんまがわ きゅうおおたがわ ほんかわ もとやすがわ
天満川・旧太田川(本川)・元安川地区
 きょうばしがわ えんこうがわ
及び京橋川・猿猴川地区かわまちづくり
 題名:水辺のオープンカフェ

- 推進主体:「水の都ひろしま」推進協議会
- 構 成 員:国土交通省・広島県・広島市、学識経験者、経済・観光関係団体、市民団体等
- 対象河川:太田川水系元安川・京橋川(一級河川)

【かわまちづくりの概要】

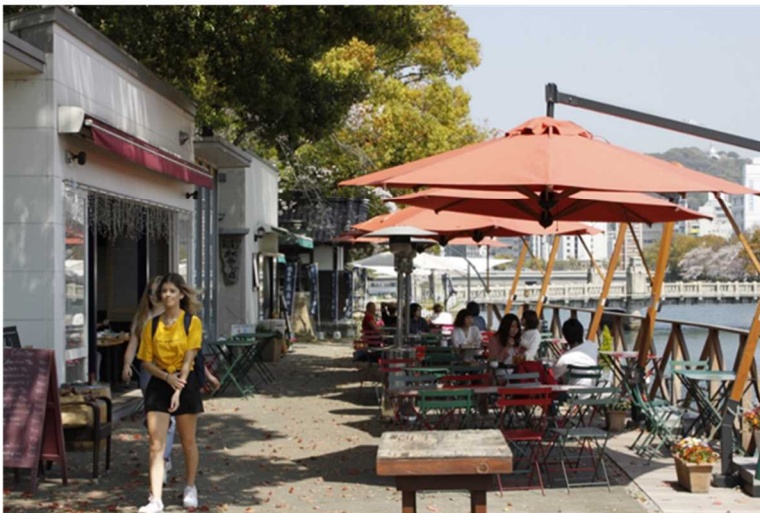
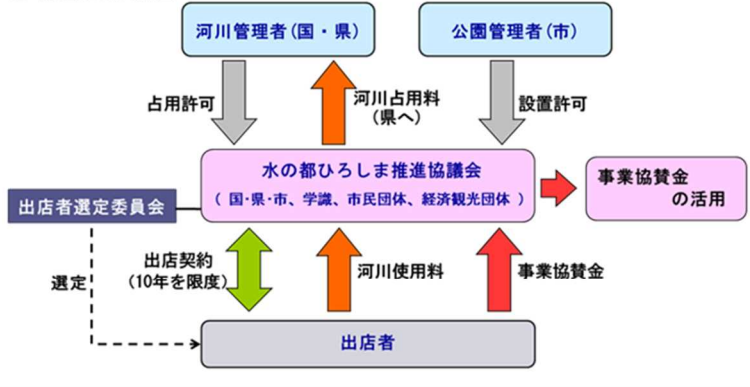
- ・ 河川区域における民間事業者による常設のオープンカフェとしては京橋川が日本で初めてであり、約 15 年の実績がある。
- ・ 出店者から預かる事業協賛金をカフェ周辺の環境整備に活用し、カフェへの誘客を図るとともに、地域の景観向上に還元している。



【評価のポイント(審査委員コメントより)】

- ・ 「まち」と「かわ」が一緒になって都市を盛り上げてきた長年の実績とともに、それが今なお継続され、まち側への波及効果をもたらしている。
- ・ 「民間事業者を協議会がプラットフォームとなり選定する」「得たお金を事業にまわしていく」というスキーム自体が全国モデルとして、他地域にも波及している。

管理運営体制図



図・写真:京橋川(左下、右下)、元安川(右上)のオープンカフェの様子。提供される食事(右中)。

問合せ先

広島市経済観光局観光政策部 おもてなし推進担当
 TEL:082-504-2676 E-Mail:kanko-omo@city.hiroshima.lg.jp

平成30年度「かわまち大賞」 審査委員会 開催概要

○開催日時：平成30年10月2日

○開催場所：国土交通本省会議室

1. 応募箇所

- 「かわまちづくり」支援制度には、現在、191件が登録されており、その中から今年度は、16件の応募がありました。

2. 審査委員会

- 審査委員会は、河川に造詣が深い、都市計画・エリアマネジメント・観光等の分野の有識者4名で行われました。

	氏名	所 属
委員長	陣内 秀信	法政大学 特任教授
委 員	楓 千里	(株)JTBPブリッシング エグゼクティブ・アドバイザー
委 員	中庭 光彦	多摩大学経営情報学部 事業構想学科 教授
委 員	保井 美樹	法政大学 現代福祉学部 人間社会研究科 教授

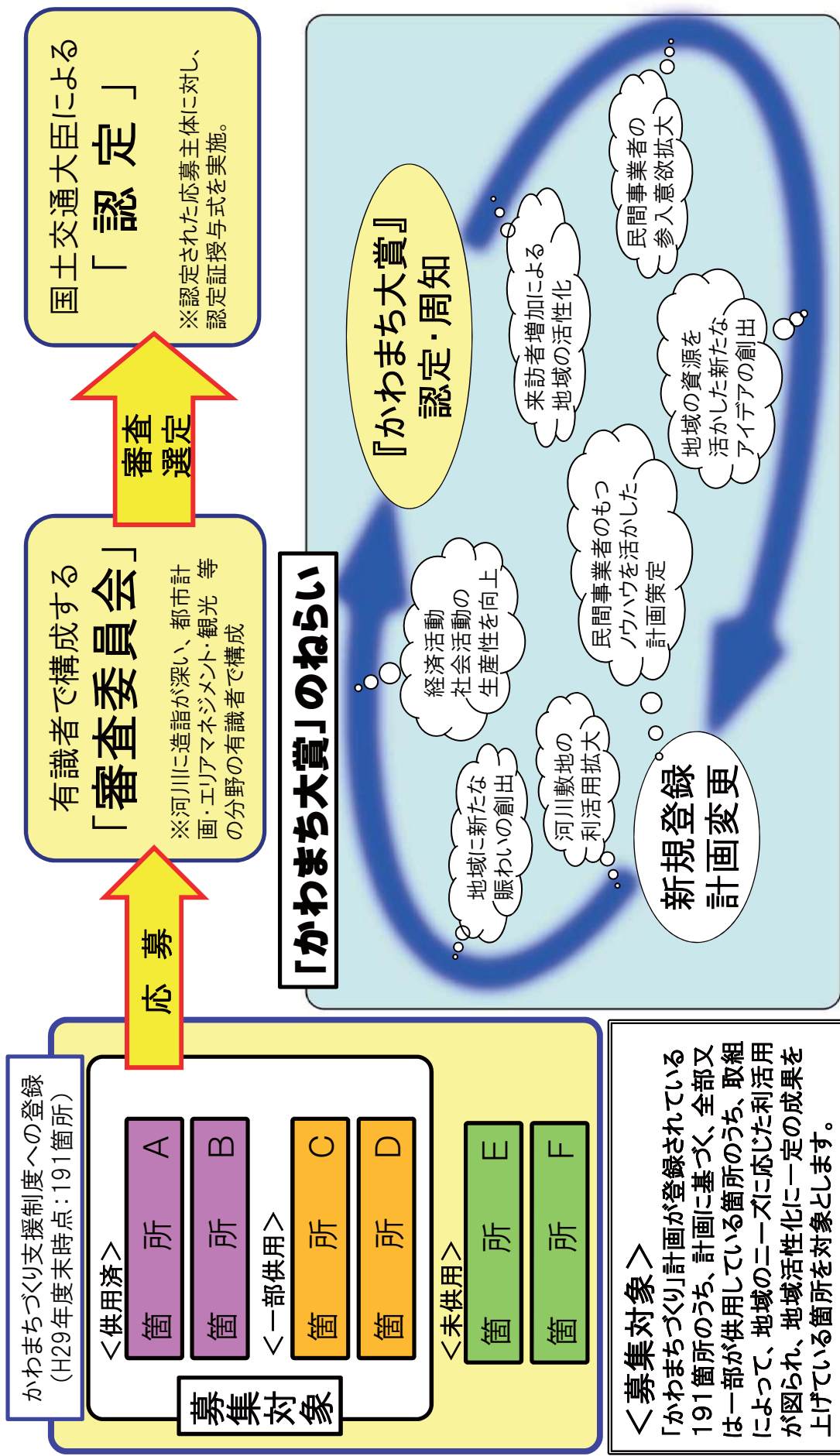
(五十音順、敬称略)

3. 審査結果

- 今回の選定にあたっては、今後の「かわまちづくり」の方向性を示すことを重視し、選定委員の総意により、2件が選定されました。

【参考①】『かわまち大賞』の概要

- ◆ 河川空間を活用し、地域の賑わいを創出した、他の模範となる先進的な取組を国土交通大臣が認定し、その取組を、全国に周知します。
- ◆ 取組団体を讃えらるとともに、「かわまちづくり」支援制度を浸透させ、民間事業者の参入を促進し、民間事業者の「ノウハウ」等を活かした質の高い「かわまちづくり」を目指します。



＜募集対象＞

「かわまちづくり」計画が登録されている191箇所のうち、計画に基づく、全部又は一部が供用している箇所のうち、取組によって、地域のニーズに応じた利活用が図られ、地域活性化に一定の成果を上げている箇所を対象とします。

【参考②】「かわまちづくり」支援制度の概要

河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指します。

【事業概要】

<ソフト対策>

優良事例等に関する情報提供のほか、河川敷のイベント施設やオープンカフェの設置等、地域ニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする「都市・地域再生等利用区域」の指定等を支援

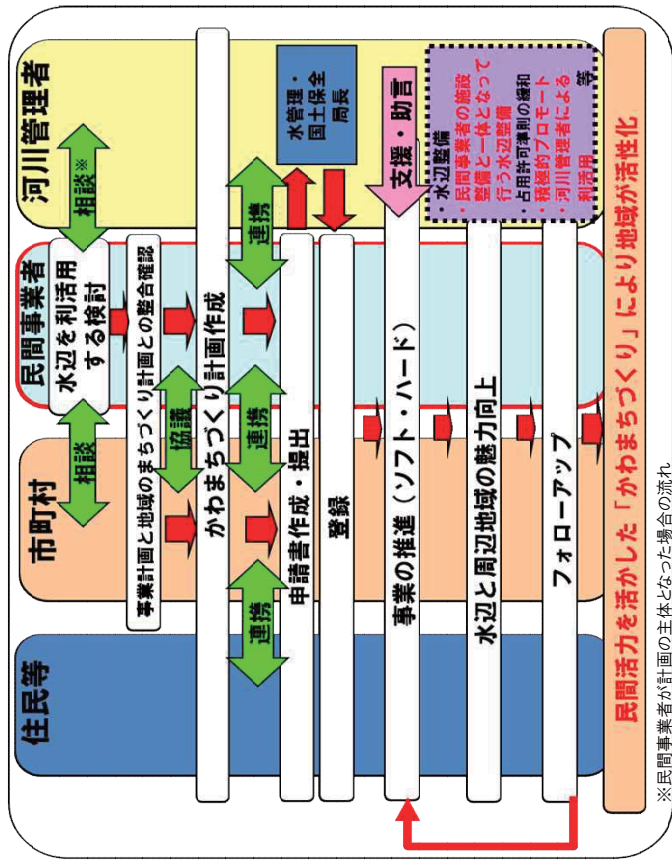
<ハード支援>

治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援



管理用通路をフットパスとして活用
(最上川)

【手続きフロー】



【対象】

【登録の条件】 ※191地区登録(平成29年度末日時点)

- ① 地域の創意としての「知恵」を活かした計画を対象
- ② 利活用方策が地域において明確となっているものを対象
- ③ 施設の維持管理に地域の協力が得られるものを対象